

程度副詞関連 2 テキスト論文&設問リスト [2012年度前期]

● 総論

① 渡辺実 1990 「程度副詞の体系」, 『上智大学国文学論集』 23, pp.1-16.

[論文①についての設問 1] 2012/04/20(金)

「彼は多少なまいきだ」は、「彼女(彼以外の人物)はすなおだ」という先行文脈を想定すれば頭在比較基準を有した表現となり、そういった先行文脈を想定しなければ、「彼のような青年はすなおであってほしい」という一般的常識(社会的期待)が潜在比較基準として働いている表現となります。それでは「彼は彼女より多少なまいきだ」にこういった考え方をあてはめた場合に、先行文脈の有無やその内容によってどのような分類が可能でしょうか。あなたご自身のお考えをなるべく整理した形で答えてください。

[論文①についての設問 2]

この論文全体を通して、非文かどうかの判断や副詞の個々の類への所属などについてあなたが疑問を感じる箇所があれば、指摘してください。論文中で非文とされている例が必ずしも非文とは言えないことを主張される場合には、なるべくインターネットなどで検索した実際の例文を根拠として添えてください。

② 佐野由紀子 1998 「比較に関わる程度副詞について」, 『国語学』195, pp.左 1-14.

[論文についての設問 3] 2012/05/18(金)

「3. 「多少」類の含意」(pp.8-9) では、「前提」と「含意」とを質の異なるものとした上で、「XはYより多少A」は「 $Y \sim A$ 」という情報を「前提」として必要とするのではなく、発話の結果として「含意」と述べています。しかし、(48) a, b をよく観察すれば、この「前提」と「含意」の区別は必ずしも明らかではないと思われます。渡辺(1990)について授業で行った考察を参考にしながら、(48) a, b について「前提」を用いたなるべく簡潔で分かりやすい説明を考えてください。(本論文における「前提」と渡辺(1990)における「先行文脈」は同じものだと考えてください。)

[論文についての設問 4]

「4.2 比較マーカー」(pp.11-12) に述べられている筆者の主張について、なるべく批判的な検討を試みてください。その際、用例の容認度の判断について疑問を感じるどころや、議論の展開について首肯し難いところなどがあれば積極的に指摘してください。

③ 林奈緒子 1997 「程度副詞と命令のモダリティ」, 『日本語と日本文学』 25, pp.左

1-10, 筑波大学国語国文学会.

[論文③についての設問 5] 2012/06/01(金)

佐野(1998)では、「XはYよりもっとA」について、「もっと」の通常の用法では「YもAである」という前提が必要であるのに対して、pp.4-5で扱われている「否定的用法」ではこの前提が必要とされないと述べられていました。林(1997)(本論文)の例文(13)と佐野(1998)の例文(21)を比較し、佐野(1998)の例文(23)~(25)も参考にしながら、「もっと」の「否定的用法」と通常の用法との関連性や連続性について論じてください。

● 「なかなか」「相当」「かなり」

- ④ 浅野百合子 1984 「程度副詞の分析—ずいぶん・だいぶ・なかなか・相当・かなり—」, 『日本語教育』52号, pp.47-54, 日本語教育学会.

[論文④についての設問 6] 2012/06/15(金)

この論文で扱われている「ずいぶん」「だいぶ」「なかなか」「相当」「かなり」のうちの二つ以上の語を同一文中で対比的に用いている用例や、異なる文章でも同じような文脈で用いている用例をインターネット検索などで探して、それらの用例の観察に基づいて、これら5つの語の間の意味の違いについてあなたなりの見解を述べてください。

(例) かなりどころか、相当不利である。

[アンケート]

百点満点のテストをしました。平均点が50点のとき、あなたが「①ずいぶんいい点だ」と思うのは、何点ですか。同様に、「ずいぶん」以外の次の②~⑥の語についてもお答えください。

①ずいぶんいい点だ。 ②だいぶいい点だ。 ③なかなかいい点だ。 ④相当いい点だ。 ⑤かなりいい点だ。 ⑥たいそういい点だ。

(もし可能であれば、お知り合いの日本語母語話者の方にも回答を依頼していただき、その結果も合わせて知らせてください。)

- ⑤ 服部匡 1994 「副詞「なかなか」の意味用法の分析」, 『言語学研究』13, pp.79-90, 京都大学.

[論文⑤についての設問 7] 2012/06/29(金)

筆者は「なかなか」のA用法とB用法を区別していますが、次のような例文では、「なかなか」の位置によってA用法かB用法かが違ってくる可能性があります。この両者にA用法

と B 用法の違いを認めるという立場に立って、あなたなりの考えを述べてください。

(a) 言うのは簡単だ。しかし、なかなか実行は難しい。

(b) 言うのは簡単だ。しかし、実行はなかなか難しい。

[論文⑤]についての設問 8]

「なかなか」の B 用法について、浅野(1984)(論文④)では、

「大体この程度であろう、この程度なら肯定できる」との個人的な予想を上回ったとき、それを評価して「なかなか」と言うのである。(p.54)

と述べて、話者の評価という単一の観点から説明していましたが、服部(1994)(本論文⑤)では、「なかなか」と共起しやすい述語を、

1. 語彙的に肯定的な評価を含む(その属性を有することが望ましいとみなされる)述語、または、文脈などから臨時に肯定的に評価される述語

2. 良い悪いには必ずしも関係しないが、知覚される、対象や事象の存在感の大きさにかかわる述語 (p.82)

の二種類に分けた上で、この二つの場合を一応別個のものとして説明しています。

また、この 2 について、本論文ではさらに尺度的な述語における有標性という概念を援用して、

「無標的な要素は、それが望ましいと捉えられるか否かに関係なく「なかなか」と共起しやすい。」(p.83)

のに対して、

「有標的な要素では、それが肯定的に評価されることが「なかなか」による限定を受けるための条件となる。」(pp.83-84)

と述べています。

浅野(1984)の説明と服部(1994)の説明を比較対照しながら、それぞれに対するあなたなりの批評や批判を述べてください。

● 「あまり」

⑥ 須賀一好 1992 「副詞「あまり」の意味する程度評価」、『山形大学紀要 人文科学』第 12 巻 第 3 号, pp.35-46

[論文⑥]についての設問 9] 2014/06/02(金)

「あまり」が否定と呼応する場合の語義の説明として、「たいして」「それほど」「さほど」といった類義語が示されることがあります。

(例) あまり／たいして／それほど／さほど うまい絵ではない。

しかし、「あまり」が否定と呼応する場合でも、常に「たいして」「それほど」「さほど」との

言い換えが可能なわけではありません。本論文の「三 否定と呼応する「あまり」の成立」(pp.37-40)の記述を手がかりにして、この両者の言い換えが不可能な例を考えてください。

[論文⑥についての設問 10]

「四 否定と呼応しない「あまり」の残存」(p.40,上段～)で、筆者は否定辞と呼応しない「あまり」が現在も使われる環境として、①「あまり」が従属節の中で主文で述べる事態の原因・理由を表す場合、および②述語が「～過ぎる」の場合の二つを掲げています。しかし、否定辞と呼応しない「あまり」には①、②以外の例も少数ながら存在します。そうした例を探して、「あまり」は、かつての意味を支え、補ってくれる環境でのみ、否定述語と呼応しない用法を残存させているのだと考えられる」(p.43,上段)という筆者の見解をあなたなりに再検討してください。

⑦ 服部匡 1993 「副詞「あまり(あんまり)」について—弱否定および過度を表す用法の分析—」,『同志社女子大学学術研究年報』44(4), pp.1-27

[論文⑦についての設問 11] 2014/06/20(金)

本論文では弱否定型の「あまり」について、「二つの尺度に慣習的に正負の関係がある場合、[...] 特別な文脈以外では無標(正方向)の尺度としか共起しにくい(p.6)」けれども、「本来負方向の尺度が望ましさと結び付く場合には、臨時に正方向と解釈されるものと考えてよかろう(p.7)」と述べられています。この分析についてのあなたの賛否をまず明確にしてください。その上で、もし賛成されるのであれば、論文⑤(須賀(1992))の記述も参考にしながら、その理由説明を考えてください。また、もし反対されるのであれば、この分析の問題点を指摘してください。

[論文⑦についての設問 12]

過度型の「あまり(あんまり)」と「～過ぎる」の使用条件の違いについて、本論文では p.2 の例文(7)、(8)および p.15 の例文(104)、(105)のところでごく簡単に述べられているにすぎません。この両者の置き換えが難しい例文を他にも示して、これらの用いられ方の差異について、さらに詳しい説明を試みてください。